

## 2-1 to不定詞を目的語にとる動詞

### — ...する方向に向かう

#### 1 to doは「これからすること」(未来志向)

want to doなど、目的語にto不定詞(to do)をとるタイプの動詞(文としては(SV to do)となる)には共通点があるのですが、おわかりでしょうか？

まず、to do自体の意味を確認しておきましょう。toは前置詞のto (go to Kyotoなどのtoです)と起源的に同じです。go to school (go → Kyoto: 京都に到達する)からもわかるように、いわばtoは「→」(左から右への矢印)に相当します。このtoの後ろに動詞の原形を続けるものを特に「to不定詞」と呼んでいます(toのない原形不定詞に対し、to付き不定詞ということもあります)。もちろん「不定詞」という用語自体も、「不定＝定まっていない」から「これから先のこと」を含意します。もうおわかりと思いますが、to doの表す意味は、「未来への矢印+do」、つまり「これから未来に向かって...する」なのです。いうなれば、**to不定詞(to do)は「未来志向」**になります。

- to do = 未来に向かって(to →) ...する(do)

#### 2 未来に向かって進んでいく：願望・意志・決意系の動詞

それでは、どんな動詞がto doを目的語にとるのでしょうか？ to doの本質がわかれば、その共通性が見えてきます。

to doを目的語にとれる動詞は、すべて「...する方向に向かう」という意味系統になります。例えば、to doをとる代表的な動詞といえば冒頭にあげたwantですが、want to doの「...したい」も「したい方向に欲求が向かう」と考えれば、その意味はいっそうはっきりしてきます。したがって、to doを目的語にとる動詞は、「**...する方向に向かう**」(未来に向かって進んでいく)という意味系統、すなわち

「これから...しよう・したい」という「願望・意思・決意など」を表す動詞が中心となります。

それに対し、動名詞(doing)はp.063以降で扱いますが、「**すでにしていること**」という、to不定詞とは正反対の方向性を表します。to doが左から右＝「これからする方向」なら、doingは「右から左」で、いうなれば「戻っていく方向」です。したがって、doingを目的語にとる動詞は「する」とは逆方向の「**しない、するのをやめる**」、すなわち「**中止・回避系**」の意味を表す動詞が中心となります。

- to doを目的語にとれる主な動詞 ⇨ 「...する方向に向かう」

refuseやfailなど一部を除けば、以下の動詞はすべて「...する方向に向かう」という意味系統になります。

##### 【願望】 ...したいと思う、願う

want (...したい) would like (できれば...したい)

wish (...したいと思う)

##### 【意図】 ...するつもりである、予定である

intend (...することを意図する) mean (本心から...しようとする)

plan (...する予定である)

##### 【決意・決心】 ...を決定する、...と決心する

decide / determine / resolve / make up one's mind

##### 【拒否】 ...することを拒む

refuse (...することを拒む) decline (...することを丁寧に断る)

##### 【努力・試み】 これから...しようとする

try\* ⇨ 結果は不明 / attempt ⇨ 不成功を暗示 (...しようとする)

seek / endeavor (...しようとする)

\*try doingは「試しに...してみる」

##### 【成功・不成功・可能】 ...できる方向に向かう

manage (首尾よく...する) contrive (どうにか...する)

fail (...しない、できない) afford (...する余裕がある)

##### 【変化】 ...するようになる

learn (...できるようになる) pretend (...するふりをする)

## 【約束・申し出・脅迫】

promise (...すると約束する) offer (...することを申し出る)

threaten (...するといつて脅す)

## 3 厳密には他動詞でないが...to do を伴う自動詞

- He **came to love** her. 「彼は彼女を愛するようになった」

この文での come はあくまで自動詞であり、to do は目的語ではありません。しかし、ここでも to do の未来志向から「do するようになる」という意味になることを考えると、他動詞、自動詞の枠を超えた共通性があるので、ここであえて取り上げておきます。同様なもの(「自動詞 + to do」で「do する方向に向かう」という意味になる)には以下のものがあります。

get to do (...するようになる) tend to do (...する傾向がある)

happen to do (たまたま...する) aim to do (...することを指す)

hesitate to do (...するのを躊躇する)

「...するようになる」を意味する come to do の do の部分には、like, dislike, hate, see (わかる), understand, think, feel, know, realize のような「**好嫌・思考・感情・認識系**」の動詞しかとれないことにも注意しましょう。また、「...するようになる」の意味では become to do (×) とは言えないことにも注意が必要です (p.047)。

なお、hope to do (...することを望む)、agree to do (...することに同意する) も厳密には、それぞれ他動詞ではなく「自動詞 + to do」です。(辞書によっては agree は他動詞としているものもありますが) そのことについては p.144 をご覧ください。

## まとめ

- to 不定詞 (to do) は「これからすること」
- その意味から、to 不定詞を目的語にとる動詞は、**want** や **decide** など「**願望・意思・決意系**」などが中心となる

## 2-2 動名詞を目的語にとる動詞 (1)

## — 基本は「中止・回避系」

## 1 動名詞の基本概念 = 現在・過去志向: すでにしていること

まず、動名詞 (doing) の基本概念を確認しておきます。Nice to meet you. が「はじめまして」の意味で、初対面での挨拶に使われる表現であることはご存知とされますが、次の表現はどういう場面で使われるのでしょうか？

- (It was) Nice **meeting** you.

これは通常、知り合った相手と会話を交わした後、別れ際に言う台詞で、「**お知り合いになれてよかったです**」にあたる表現です。

to meet が meeting に、すなわち、to 不定詞が動名詞に変わっただけですが、ここで注目していただきたいのは、meeting という動名詞が表す意味です。「未来志向」の to do と異なり、doing は「すでにその行為が始まっていること」を表します。これは「進行形」(現在分詞)でも同じです。ということは、doing の一般的な意味とは「**すでにしていること**」、いうなれば「**現在・過去志向**」が基本となります。このことを確認したうえで、doing を目的語にとる動詞の意味を考えてみてください。

## 2 doing を目的語にとる動詞は「中止・回避・繰り返し系」

doing を目的語にとる動詞は昔から、MEGAFEPSDA (メガフェプスダ) などと、それぞれの動詞の頭文字をとった一種の語呂合わせで丸暗記をさせられた方も多いのではないのでしょうか。

M E G A F E P S D A

M miss (...しそこなう) / mind (...をいやに思う)

E escape (...を免れる)

G give up (...をやめる)